

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「オオカミだ! (Cry wolf)」と叫んで、村人たちにウソをついた羊番の少年は、三度目に本当にオオカミが出たとき、「オオカミだ!」と叫んだが、誰も助けに来てくれなかった。これは『イソップ物語』の話だが、子どもにもわかる戒めである。

「ウソをつくのは悪いこと」「ウソをついてはいけない」と教え込まれるので、子どもは、「ウソ」が悪いものであるらしいことは理解する。しかし、だからといって、^①「ウソとはどのようなものか」ということがわかっているかという点、かならずしもそうとは限らない。

たとえば、ある六歳児の場合。母親が勘違いをして、火曜日に学校でパーティーがあると行ってしまった。これは実際には、事実と反する発言だった。こうした勘違いはよくあることで、事実と反するからといってウソであるとは限らない。しかし、この子は、その母親を「ウソつき」と呼んだ。

つまり、この子には、まだウソというのはいったいどんなことを指すのかが、正しく理解されていないことになる。先述のエクマンは、八歳未満の子には、こうした方がいいはまだ理解できないとしている。

生まれたばかりの子どもにとって、世界は混沌とした状態のものであり、意識のなかで自他の区別はない。そうした発達初期を過ぎると、子どもは、母親が自分とは別の存在であることに気づきはじめる。これには個人差はあるが、およそ六か月から二歳くらいの間である。

自分以外の存在がわかり、そうした存在の言っていることがわかる時期になると、子どもはウソをつきはじめる。あるいは、ごまかしをはじめるものらしい。「ごどもは純粋だ」、という話を耳にする。純粋なのではない。ただ単に、ウソをつけるほど知的に発達していないだけなのである。

ある程度知的に発達してくると、意識的にウソをつける、**A**「ごまかしができるようになる」。

B、「一〇か月の子でも、まわりの人に気に入らないことをされた場合には、聞こえないふりをするところがある。こういうとき、イヤイヤをするという単純な拒否や、泣きわめくとか逃げ出すという手段では、効果がうすいか、あるいは労力がかかりすぎたりする。そこで、手取り早く、**C**「効果の高い」「聞こえぬふり」をするのだろう。

言葉や行動がもう少し自由になると、聞こえないふりに加え、その場から姿を消すとか、話を変える、別のことをはじめるといった高度なワザを使いこなせるようになる。そして、言葉が自由自在に使いこなせる段階になると、立派なウソをつけるようになるというワケである。

つまり、子どもが上手にウソをつけるようになっていくということは、その子が順調に知的発達を遂げている証拠ともいえるのである。^②ウソをついてはいけない、と教えられるにもかかわらず、^③子どもはいつの間にかウソのつき方を身につけていくように見える。

ウソをつくという行為は先天的なものというより、やはり、後天的に学習するものと考えるほうが妥当なようである。じつは、このときに師となり、モデルとなっているのが、「ウソはいけない」と説いている当の大人たちなのである。

たとえば、欲しいものの前に座り込んで動こうとしない幼い子に向かって、「置いていきますよ」と親は言う。もちろん、本当に親が子を置いていくはずがない。子どもとしたはずの約束を忘れる。子どもに頼まれていたことをし忘れる。こうしたことが重なる、子どもは、「親の言うことは実際には実行されない」、つ

まり「ウソだ」ということを学ぶ。そして、「ウソをついてもよい場合がある」と思いはじめる。

こんなふう**D**に学ぶこともあれば、もっと**E**に学ぶこともある。

「家庭教師に来てもらっているなんて、誰にも言っちゃダメよ」

「先生に、塾に行っているなんて話さないのよ」

「お父さんには(あるいは、お母さんには)内緒にね」

「(かかってきた電話に、あるいは訪ねてきた人に)お父さん(お母さん)はいないって言いなさい」

……^②など、^③枚挙にいとまがない。このように、毎日毎日、直接的・間接的にウソにさらされているうちに、子どもたちは、ウソをついたり、ごまかしたりすることを悪びれもせず^④に体得していくことになる。

子どもに、本当にウソをつく人間になってほしくないのであれば、「両親が手本を示せ」と先述のエクマンは言う。彼によると、親は「方便」としてのウソもつかないこと、家族の信頼のきずなを強調すること、やさしさを示すことが大事だという。

ここまでできないという親は、エクマンが言うように、「悪いことや、それを隠すためのウソは罰してやればいい。しかし、許してやることも忘れずに」という態度で、子どものウソとつき合っていくしかないだろう。

ところで、ウソをつくのは悪いことだといわれるが、では、真実を告げるのはよいことだと断言できるだろうか。

たとえば、「○○さんは、じつは……」とか、「彼はこう言っているけど、本音は……」ということを人に告げる場合。もし、その話題の主をおとしめたくて「真実」を話すのだとすると、その人の心は悪意に満ちていることになり、決して善であるとは言えない。つまり、かならずしも、ウソつきが悪人であるとは限らないことになる。

^⑤正直者だって、悪人になる、あるいは、悪人である可能性は非常に高いのである。

(渋谷昌三『人はなぜウソをつくのか』より)

(語注) ※エクマン……アメリカの心理学者。

問一 線部①「ウソとはどのようなものか」とありますが、子どもはどんなものを「ウソ」だと思っているのですか。本文中から八字で抜き出しながら、

問二 文章中の空らん**A**、**C**に入る言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア しかも イ しかし ウ あるいは エ たえば

問三——線部②「子どもが上手にウソがつけるようになっていくということは、その子が順調に知的発達を遂げている証拠ともいえるのである」とありますが、これはどういうことですか。次のア～エよりもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア 純粹だった子どもは、知的に発達するに当たってウソをつくようになり、純粹さが失われていくものであるということ。
- イ 子どもがウソをつくようになるのは、その子が順調に知的発達を遂げている証拠であるので、むしろ喜ばしいことであるということ。
- ウ 子どもは、ある程度知的に発達すると意識的にウソがつけるようになるものであり、ウソをつくのは、ごく自然な現象だということ。
- エ 子どもに、ウソをつくのは悪いことだと気づかせるためには、ある程度の知的発達を遂げるまで時期を待たなければならないということ。

問四——線部③「子どもはいつの間にかウソのつき方を身につけていく」とありますが、それはなぜですか。二十字前後で説明しなさい。

問五 空らん D、 E にあてはまる反対の意味の言葉を、三字ずつでそれぞれ文中から抜き出して答えなさい。

問六——線部④「方便」とあるが、この言葉を用いたことわざを、五字以内で答えなさい。

問七——線部⑤「正直者だって、悪人になる、あるいは、悪人である可能性は非常に高いのである」とありますが、そう言えるのはなぜですか。五十字以内で答えなさい。

問八——線部(1)(2)(3)の語句の意味として正しいものを、それぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

(1) 「混沌」

- ア 物事が入り乱れ、区別がつかないこと
- イ 自分が中心で、他者を認めないこと
- ウ 思いどおりにならず、もどかしいこと
- エ きちんと整い、秩序立っていること

(2) 「枚挙にいとまがない」

- ア 理屈に合わず、理解できない
- イ 入り組んでいて、言葉で表現できない
- ウ たくさんありすぎて、数えきれない
- エ 思いがけずに、あきれるばかりだ

(3) 「悪びれもせず」

- ア 悪いことだとわからずに
- イ うしろめたい様子で
- ウ 遠慮する様子で
- エ 平然として

二 次の文章は、村山由佳の小説『約束』の一部です。地球環境の激変が原因と思われる、発疹と咳が出る病気が流行し、治療の見込みは立っていません。ある日のテレビで、大学教授が「これは、我々に対する自然からの罰なのかもしれない」「人間のおごりが招いたしつぺ返し」とコメントしたことを「僕」は気にしています。以下の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「あとはこちらに、頑丈なフタをつければ出来上がりかな」

おばさんが病室を出て行った隙に、ノリオはランドセルから前の日撮った写真を撮りだして報告した。

「くそう、早く本物を見たいなあ」

ヤンチャは悔しそうに言った。

僕らから作業の経過を知らされるようになって以来、ヤンチャはずいぶん元気を取り戻したように見える。

咳が出るのも、食欲がないのも、赤くて痛痒いポツポツが出るのもあいかわらずだったけれど、少なくとも気持ちだけはしゃんとしてきたみたいだ。

「いいなあ、オレも一緒に作りたかったなあ」

「治ったら、また何だって一緒にできるよ」

と僕が言うと、

「うん……」ヤンチャは窓に目をやった。「けど、いつになったら治るんだろうな」

窓辺には、きれいに飾りつけられた小さなモミの木が置いてあった。もうすぐクリスマス・イヴ。ヤンチャの入院から、もう三か月がたとうとしている。

「さてはお前、オレたちを信用してないな？」ノリオが、わざと怒ったようなふりをして言った。「タイムマシン、お前のために作ってやってるんだぞ。あれが完成してみる、お前の病気なんかすぐ治る」

「うん、そうだよな」

ヤンチャがにっこりした。その時、

「タイムマシンか……」

聞き覚えのない声に、僕は慌ててふり返った。

さっきまで横になって寝ていたはずの隣のおじさんが、起き上がって僕らを見ていた。これまで僕らがここへ来た時、おじさんはたいいてい待合室でたばこを吸っているか、ベッドにいても一言も話したことはなかったのに。

うちの父さんよりだいぶ年上のように見えるその人は、〈おじさん〉というより〈おっちゃん〉という感じの人だった。前にヤンチャから聞いたところによると、仕事は大工さんらしい。

でも、その人も今は、やっぱりガリガリに痩せてしまっていた。顔や胸に赤い発疹があるのも、しょっちゅう咳をするのもヤンチャと同じだ。「タイムマシン、か」と、おっちゃんはもう一度くり返した。「いいな、おめえらが作ってんのかい？」

ハム太がノリオを、ノリオは僕を、僕はヤンチャを見た。みんな黙っている。

理由もたぶん一緒だった。「そうだよ」と認めたりしたら、大笑いされそうな気がしたのだ。ヤンチャの前で、あれのことを馬鹿にされるのは我慢ならなかった。というより、怖かった。ヤンチャがどれほどあれを気持ちの支えにしているか、僕らがどんな思いであれを作っているか……大人はどうせわかっちゃくれない。あの晩の父さんがそうだったように。

「関係ないだろ」

とうとう、ノリオが言った。すごくつつけん口調だったのに、

「関係なかあねえさ」A「もしこの世にタイムマシンなんてもんがあるんなら、一番先に乗せてもらいてえからね」

「一番はヤンチャだよ」

つるつと口をすべらせたハム太を、ノリオと僕が両面からこづく。

「なら二番目でもいいやね」

と、おっちゃんは言った。少し笑ってはいたが、馬鹿にしているふうではなかった。

僕は思いきって訊いてみた。

「どうしてタイムマシンに乗りたいの？」

ノリオが袖を引っぱるのがわかったけれど、無視して続ける。

「やっぱり、未来の世界へ行って病気を治したいから？」

「いんや」と、おっちゃんは言った。「そんな見たこともねえようなとこなんざ行きたかねえね。俺が行くとしたら、過去のほうさ。そうさな、二十年か三十年

くれえ前の世界へ、ひょいっと飛べたらありがてえね」

「さん・じゅう・ねん？」とノリオ。「そんな大昔へ行って、いったい何をしようっていうのさ」

「何をって、おめえ……そりゃ、いろいろやり直せるんじゃないかと思っよ」

そう言って、B「やり直したいことがいっぱいあるのかな、と僕は思った。」

「それよか、いっそのこと、怒鳴り込んでやるってのもいいな」と、おっちゃんは言った。

「三十年後の世界が、どれくらいえひでえことになっているか、連中に思い知らせてやるのさ。』^③どうしてくれんだ、^③てめえらが好き勝手にしてくれたせいで俺らが尻拭いさせられてんだぞ』ってね」

〈尻拭い〉

僕は口の中でつぶやいた。

——しりぬぐい。

「そ……そりゃないよ」とハム太が言った。「だってさ、そんなのってフコ……ええと、不公平じゃないか」

するとC

「そうさな。そりゃ、おめえらの言う通りなんだろうけどよ。ただ、このごろ俺も思うようになったよ。『不公平』ってのはもしかして、『人生』ってやつ別の呼び方なんじゃないか」

へへっ、こりゃ我ながら名文句だ」

「ごそそと布団をたくしあげ、しんどそうに横になると、おっちゃんは低くかすれた声で言った。」

「ま、気にすんな。おめえらには、まだわかんなくていいこったよ」

学校と病院と家とを結ぶこの道を、もう何回通ったことだろう。

(なんだか、時代劇でみたお百度参りみたいだな)

河原の土手を歩きながら、僕は思った。何度も何度もくり返し通うことで、神様に思いが通じてヤンチャが退院できるのだとしたら、お百度どころか、五百度だって千度だって通ってみせるのに。

病院からの帰り道、僕はノリオとハム太に、この間のテレビの話をしよとした。さっきおっちゃんが「尻拭い」と言うのを聞いたら、なぜかあの教授の話も思い出して、ついでにあの時のいやな気持ちまで思い出してしまったからだ。

でも、何から話せばいいのかわからなかった。

いったいどう言えば、今のこの、胸の奥へ奥へと食い込んでいくようなイライラや割り切れなさをわかってもらえるんだろう。

なんだか、夢の中で正体の見えないものに追いかけてる時のようだった。焦れば焦るほど、思うことがうまく言葉にできなくて地団駄を踏みたくなる。⁽²⁾

そのへんに落ちていた石を片っ端から拾って、めったやたらに投げつけたくなる。

僕は、大きく深呼吸した。

真冬だというのに、^⑤風はいつもよりなまぬるく、ドブの臭いがきつく感じられた。

立ち止まって土手から下を見る。曇り空のもと、川はよどんでのっぺりと平べったく見え、汚い泥の色ばかりが目立っていた。

そういえば、ずっと前に父さんから聞いたことがある。父さんたちが子どもの頃は、この川の水がそのまま飲めたのだそう。でっかい魚もいっぱいいて、時には釣って食べたりしたのだそう。

もしもこの世に本物のタイムマシンがあって、せっかく未来に行けたとしても、未来の世界は今よりもっと汚くなってらんじゃないだろうか。ヤンチャのような病気だって、もっともっと沢山の人に広がってしまっていて、病気じゃない人を見つけるほうが難しいくらいじゃないだろうか……。

問一——線部①「ノリオが、わざと怒ったようなふりをして言った」とありますが、どのような気持ちで言ったのですか。次のア〜エよりもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア せっかくみんなで病気が治るよう励ましていたのに、ヤンチャ自身が弱気になっているのを不満に思う気持ち。
- イ タイムマシンの完成がもうすぐなのでうれしくなり、ヤンチャを相手に冗談を言っはしゃいでいる気持ち。
- ウ 病気を口実にして、何かにつけてわがままなふるまいの目立つヤンチャを、冗談めかしてたしなめたいという気持ち。
- エ ヤンチャの病気は簡単には治らないと思っているが、ヤンチャ本人にそのことを気付かせずに元気づけたいという気持ち。

問二——線部②「ヤンチャの前で、あれのことを馬鹿にされるのは我慢ならなかった。というより、怖かった」とありますが、それはなぜですか。次の空らんに入る言葉を(1)(2)には指定の字数で本文中からそれぞれ抜き出し、(3)には十字以内の言葉を自分で考えて書きなさい。

- ヤンチャの病気を治すためには(1)六字(2)五字(3)へ行くしかない、ヤンチャも「僕たち」も信じているので、(1)を否定されることはヤンチャにとって(3)ということになるから。

問三——線部③「てめえらが好き勝手にしてくれたせいで俺らが尻拭いさせられてんだぞ」とありますが、おっちゃんこの言葉を「僕」はどのような意味に理解しましたか。次のア〜エよりもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア 三十年前に好き勝手にお金もつけをした人たちのせいで、現在おっちゃんたちが貧乏に苦しんでいるという意味。
- イ 三十年前に好き勝手に自然を破壊した人たちのせいで、現在ヤンチャやおっちゃんが病気に苦しんでいるという意味。
- ウ 三十年前におっちゃん自身が好き勝手にしてきたことを反省し、やり直したいと考えているという意味。
- エ 三十年前に好き勝手にふるまうことができた人とできなかった人がいたことを、不公平だと考えているという意味。

問四——線部④『不公平』ってのはもしかして、『人生』ってやつ別の呼び方なんじゃねえか」とありますが、どういうことですか。「人生は」に続く形で、「不公平」という語を用いて、分かりやすく説明しなさい。

問五——線部⑤「風はいつもよりなまぬるく、ドブの臭いがきつく感じられた」とありますが、この描写が暗示している僕の気持ちを本文中から二十八字で探し、始めと終わりの五字ずつを答えなさい。

問六 空らん

A	〜	C
---	---	---

 にあてはまる文としてもっともふさわしいものを次のア〜ウよりそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア おっちゃんは窓から僕らに目を移して、へっと頬をゆがめた。
- イ おっちゃんは怒った様子もなかった。
- ウ おっちゃんは苦笑いしながら窓の外を見やった。

問七——線部(1)「つつけんどん」(2)「地団駄を踏む」の意味として正しいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- (1) 「つつけんどん」
 - ア 冷たくぶっきらぼうであること
 - イ 敵対する心をむきだしにすること
 - ウ ばかにする態度で接すること
 - エ 親しげな態度で接すること
- (2) 「地団駄を踏む」
 - ア 我慢ができずに逃げ出す
 - イ 怒ってものを踏みつぶす
 - ウ 悔しくて足を踏みならす
 - エ 決心して第一歩を踏み出す

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある新聞に、大変印象深い投書がありました。

それは地方新聞に載っていたのですが、若いお母さんからの投書で、「私はもう泣かない」というようなタイトルが付いていました。その若いお母さんは、おそらく仕事をもち、そして家庭内のこともちゃんとやるような、キャリアウーマンとしても大変能力のある人だろうと思われました。そのお母さんがある時、小学生の子どもさんの目の前で初めて、夫と激しいいさかきをした。その結果、どっと畳の上に泣き伏してしまったと言うのです。号泣してしまっただけです。

そうしたことはこれまで一度もなかったもので、その後、若いお母さんは子どもにそうした状況を見せてしまったことが非常に不安になりました。それで子どもが寝ている二階の部屋へトントンと上がって行って、ドアを開けて様子を見た。すると、その小学生の子どもはベッドに横になってぼちり目を開けて起きていたそうです。

それでそばに行ってベッドに腰掛けて、こう言って謝りました。
「ごめんね、さっきはお母さんみっともないところを見せて。さぞかし嫌な気持ちでしたでしょう」

すると、子どもが「ううん」と首を振って、こう言ったというのです。

「僕、お母さんが泣くところを初めて見た。すっごくビックリした」

おそらくこの子にとって、その母親は、とても頼りになる、有能な母親であったのだと思います。

仕事もバリバリこなし、家庭内のこともちゃんと仕切って、ひょっとしたらご主人よりもっとリーダーシップを握っていたお母さんかもしれません。子どもにたいしても教育ママと言えるような母親だったかもしれない。

気丈な母親が、動物のように肩を震わせて号泣する場面を見た子どもは、そこで初めてひとりの人間としての、あるいは女としての、母親を見た。そういう驚きがあったのでしょうか。

ますます母親は恐縮して、「ごめん、ごめん。もうそんなこと二度としないから」と言ったそうですが、子どもは続けて、こんなふうにも言ったそうです。

「それに、お母さんがあんなふう泣いているのを見ていたら、なぜかわからないけど、僕まで悲しくなってきた」

これはあたりまえのことのように見えますが、その子どもにとっては、^①驚くべき未知の体験であったように思えてなりません。

つまり、母親といえども自分とは違う一個の人間である。

自分と違う人間が、そこで深く悲しみ、傷ついて泣いている。そうすると、なぜかわからないのに、自分の心のなかになんとも言えない悲しみが生じてくる。悲しみが感染して、自分の心に共鳴し、自分の気持ちまで悲しくなってきた。

これはその子にとっては不思議な、未知の体験であったのではないかと思います。

母親は、もう二度と子どもの前で同じことはしない、と誓って、それを投書し、それが掲載されたのでしよう。

私はそれを読んで、いろいろと考えると考えるところがありました。

その若いお母さんの、「もう二度と泣かない」という決意は立派なものです。けなげでもありません。

しかし、ひょっとして、そのお母さんは身も世もなく、子どもの前で自分の人間性をさらして、ひとりの女として号泣してしまったという姿を見せたことで、じつはその子どもに、とっても大きな思いがけない贈り物をしたのではなからうか。そんなふう考えた部分もあったのです。

そういう母親の姿を初めて見たということは、子どもにとってみると非常にいいことだったのではなからうかと思えました。

たとえば、後々、その口うるさい教育ママ的な母親がその子にむかって、

「なんか最近いろんな事件があるけど、あなた、学校にナイフなんか持って行っていいじゃないでしょうね」

なんてことを、きつい口調で詰問したとしたら、普通だったら、

「うるせえな、そんなことねえよ」

といった具合に答えがちな中学生が、そう答えようと思いがら、頭の片隅にふっと一瞬、肩を震わせ畳の上につっ伏して泣いていた母親の姿が頭をすっと横切る。そうすると、ひょっとしたらそういう反抗的な言い方でなく、

「大丈夫だよ、心配するなよ」

という、少しいたわりを含んだことばを選ぶような気がするのです。

強くて、有能で、そしてときばきとした口うるさい母親、そういう母親を自分を抑圧するものとして感じていた子どもにとって、肩を震わせて泣きじゃくるその母親のイメージは、一生、その母親のもうひとつの顔として、子どもの印象のなかで生き続けるのではないのでしょうか。

母親が期せずして、そこで人生の側面というものを子どもに見せてしまった。

そのことは、結果的に子どもにとって、^②とても大きなプレゼントをもらったことになるんじゃないかなとふっと考えることがあります。

(五木寛之『いまを生きることば 朝顔は闇の底に咲く』より)

問一 —— 線部①「驚くべき未知の体験」とありますが、子どもにとってどのようなことが「未知」であったのですか。七十字以内で説明しなさい。

問二 —— 線部②「とても大きなプレゼント」とありますが、そのように考えられるのはなぜですか。次の空らん(1)(2)にあてはまる言葉を指定の字数で本文中から抜き出し、説明を完成させなさい。

泣きじゃくる母親のイメージがその母親の(1) 六字)として印象に残り続け、母親に対する(2) 四字)の気持ちを選ばせる気がするから。

問三 本文の内容として正しいものは○を、そうでないものは×を解答らん(らん)に書きなさい。

- ① 母親は、子どもの前で号泣したことを良かったと思(おも)って新聞に投書した。
- ② 新聞に投書した母親は、有能で、後々、子どもにとって口うるさい存在になるかもしれないと筆者は考えている。
- ③ 子どもに対して、一人の人間としての母親の姿を見せることには意味がある。
- ④ 価値のあるプレゼントとは、金額の問題ではなく、相手のためになるという予想ができるものをあげることだ。

四 次の——線部の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 時間の無駄を省く。
- ② 消毒薬を散布する。
- ③ 内容の貧弱な本。
- ④ 顔が真っ青になる。
- ⑤ 事件の因果関係を調べる。
- ⑥ 血相を変える。
- ⑦ そのやり方が定石だ。
- ⑧ 芸の道を究める。
- ⑨ 傷んだ果物。
- ⑩ 地図で子午線を探す。

五 次の——線部のカタカナを漢字になおしなさい。

- ① ゲンロンの自由を守る。
- ② サクラナミキの通りを歩く。
- ③ ジムに対応する。
- ④ ノベ千人あまりが集まった。
- ⑤ プリントをインサツする。
- ⑥ ハンキをひるがえす。
- ⑦ 戦いにヤブれる。
- ⑧ 会社をセツリツする。
- ⑨ ホウガイな値段をつける。
- ⑩ 輸入品をアキナう。

国語 (28・M・一般前期)

受験番号
得点
※

解答用紙

※印のらんには記入しないこと

五		四		三				二					一								
⑥	①	⑥	①	問三	問二	問一		問六	問五	問四	問三	問二		問一	問八	問七		問五	問四	問二	問一
			く	①	1			A	始め			3	1		(1)			D		A	
れる				②				B							(2)			E		B	
					2								2								
				③				C	終わり						(3)			問六		C	
		める																			
				④				問七												問三	
								(1)													
								(2)													
う																					

※	※	※	※	※	※
---	---	---	---	---	---